



毎年、この香りで秋の訪れを感じます。「キンモクセイ」

## 目次

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1. 巻頭言          | 4. ふれあい看護体験 |
| 2. 開放型病院紹介      | 5. 編集後記     |
| 3. 医療安全病院相互チェック |             |



### 国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



### 宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

## 巻頭言

### 「十五夜に思うこと」



院長 比嘉 利信

今年は9月8日に十五夜を迎えた。翌日が満月、軌道が地球に近く大きな月（スーパームーン）を拝むことができた。

少年の頃、田舎では十五夜に綱引きや相撲大会が開かれた。子供会で、ススキや栗を里山に探しに行き、お供え用の束にして近所に配った。土俵は投げられても痛くないように、ノコクズを厚くまいた。ノコクズは近くの製材所からリアカー一杯にして運んだ。カンパで相撲の賞品を買った。女の子も相撲を取った。子供が多く、おおらかな時代の懐かしい思い出である。

それにしても、このところの異常気象に恐怖感さえ覚える。行った先々で「最近の気候は何処か変だ」と話される。ゲリラ豪雨、大洪水、土砂崩れ、ひょう、竜巻など自然の猛威が襲いかかっている。台風、地震、火山など含むメガ・ディザスター（巨大災害）は、地球温暖化が大きな要因と考えられている。人類は、とくに産業革命以来、豊かでスピーディで便利な社会を追究し、自然環境を破壊してしまった。

「地球が2つ必要です」というACジャパンの広告を見た。私たちが今の暮らしを続けると、2030年には地球2つ分の資源が必要になるそうだ。1つしかない地球の資源でまかなえる、地球にちょうど良いライフスタイルの実践が呼びかけられている（One Planet Lifestyle）。季節ごとに静かに時を刻む草花・虫の生態系や星空など、自然界の摂理に感服することは少なくない。満月のお月様の見上げながら思うことである。

ところで「2025年に向けた医療提供体制の改革」の内容が明示され法制化された。いよいよ、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上の超高齢化社会に突入していく。地域の医療介護の総合的な確保のため、効率的で質の高い医療の提供と地域包括ケアシステムの構築を目指している。病床機能は高度急性期、急性期、回復期・慢性期に4区分される。私たちの病院では、急性期から慢性期の診療機能を担うことになるであろう。地域における質の高い医療を確保していくため、連携を密にし、バランスのとれた道を模索していきたい。

# 平成 26 年度開放型登録医療機関紹介

## にしだ皮膚科

院長 西田 隆昭 先生

〒880-0921

宮崎県宮崎市本郷南方 2478 番地 3

TEL:0985-56-4112

〈診療科〉 皮膚科



こんにちは、本郷南方で皮膚科を開業しています西田隆昭と申します。平成 7 年に宮崎医科大学を卒業し、そのまま皮膚科に入局。平成 23 年 10 月に開業し、まる 3 年が経とうとしているところです。

東病院を出て、バイパスに乗らず、旧道を南に下り国富小学校を少し過ぎたあたりに当院はあります。立地的に近く、患者さんのやり取りを通じて東病院の先生方には大変お世話になっております。先日も両下肢のシビレの患者さんを診て頂き脊髄の病変が疑われるとお返事を頂き、我ながらナイス判断と思えました。調子に乗ってピリピリが移動する患者さんのことを相談したらそれは違うようだと言われて教えて頂きました。まだまだ勉強中の若輩者です、よろしく願いいたします。

最近の話題といえば台風でしょうか、自分が大学病院、県病院に勤めていた時は台風で休むことは全く考えていませんでした。帰れなければ泊まるし、翌日いけそうになれば泊まるしで、開業しても同じ考えでした。でもスタッフの通勤や、患者さんの来院や薬局への移動などを考えると、あえて無理して開けない方が良いのかもと考えました。7 月に台風が来るぞという時は前日早々に休診を決め、準備もばっちり行いました。翌朝はそよ風程度、雨も少し。急遽休診取りやめ。休みのつもりのスタッフに連絡し、時間遅れで開始しました。8 月の台風は前回の轍を踏まじと直前まで粘りました。風雨強く開けるつもりで強行通勤してきたスタッフに休診準備の手伝いをしてもらい急遽休診。経営者、責任者としての重積と判断の難しさを痛感しました。今後もこういった件で悩むのだろうと思います。

開業してまる 3 年が経とうとしているところで、少し患者さんや往診依頼も増え(たまたま夏だから?)本業も忙しくなってきました。医師会や諸会の端役にも就き、原稿や講義の依頼もいくつか来るようになりました。まだ 3 年ですが、今後の 20 年、30 年先を見越して地域の中で長くやっていけるよう頑張りたいと思います。医局在籍中は耳学問でも知識が増えていったのですが、開業するとその機会は激減しました。その分諸先生方とのやり取りを通じて勉強することが増えました。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。夏らしくなかった夏の終わりに、追い打ちをかけるような駄文、失礼いたしました。



### ※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成 16 年 9 月より開放型病床を設置しております。開放型病床とは、かかりつけ医師(開業医)と宮崎東病院医師(主治医)とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。現在 8 4 医療機関の先生方にご登録いただいております。

# 医療安全病院相互チェックを実施して

医療安全管理室 千代森夕子

国立病院機構では、医療安全対策の均てん化を図ることを目的として平成23年度より医療安全病院間相互チェックが行われています。いつ当院が対象となるか、緊張の毎日でしたが、遂に今年度は、宮崎県と鹿児島県で相互チェックが実施されることとなりました。5月に通知されてから実施要項を片手に準備態勢に入ったのを覚えております。



9月3日（水）には、宮崎東病院の相互チェック部隊として、副院長を先頭に医療安全推進担当者13名で都城病院のチェックに行つてまいりました。チェック対象の都城病院は、病院機能評価受審を目前として、スタッフ一丸となって適切な医療の提供に励んでおられることが伝わってきました。当院と同じ電子カルテを使用していましたが、私達が普段不

自由と感じている部分も、多数のテンプレートを作成し、記録時間の短縮や記録漏れ防止など独自に改善しておられました。このことを参考にして、当院でも活用できるように医療安全推進担当者とともに、整えていきたいと思ひます。

また、9月9日（火）は当院がチェック対象施設となり、宮崎病院からのチェックを受けました。チェックを受ける直前までドキドキでしたが、各部署、日頃行っている事をきちんと伝えられていました。また、途中宮崎病院の方々とディスカッションもでき、大変有益なものとなりました。講評では、整理整頓されていると2施設から褒めていただきました。前日まで頑張った甲斐があった、この状態が維持できるという瞬間でした。医療安全対策については、たくさんのアドバイスを受けることができました。今回の医療安全病院間相互チェックを通して、たくさんの刺激をうけることができとても良い機会となりました。今後は、自施設の良いところを伸ばし他施設の参考になる部分は活かせるように医療安全管理に励みたいと思ひます。ご協力くださいました皆様に感謝いたします。



# ふれあい看護体験を実施して

6 病棟副看護師長 後藤広行

7月31日(木)に宮崎県看護協会よりの依頼を受け「ふれあい看護体験2014」を開催しました。当院へは宮崎県内5つの高校から2年生と3年生の計15名が体験に参加してくれました。当日は雨が降る悪天候の中、病院の入口に定刻前から、まだあどけなさのある高校生が並んで待っていました。早速、はじめての白衣に袖を通し、やや緊張した面持ちで院長、看護部長からの挨拶を受けた後、集合写真の撮影、病棟に入っの看護体験という流れで進んでいきました。参加した高校生は将来、看護師を目指したいと考えている人が約9割を占めていました。

1病棟(呼吸器内科・外科病棟)、3病棟(神経・筋難病療養病棟)、5病棟(神経・筋難病病棟)、6病棟(呼吸器内科病棟)に3~4名ずつ分かれ、各病棟担当の看護師と共に、それぞれ看護体験をしました。体験内容は検温、車いすの操作、経管栄養法、清潔ケア、患者さんとのコミュニケーション、療育指導員による行事の見学などでした。検温では聴診器を使用して患者さんの呼吸音を聴き「呼吸」を体感し、車いす操作では高校生同士が患者・看護師役となり両者の立場を体験しました。療育指導員による病棟行事では患者さんと一緒に歌を歌うなど療養病棟での患者さんの過ごし方を知ることが出来たと思います。体験終了後には参加した高校生と担当した看護師の間で意見交換会を行いました。高校生からは、体験を通して「呼吸音を聴いて感動とともに責任を感じた」「看護師の動作ひとつひとつに配慮が必要で、命を助けるために働いていると感じた」「病院は静かで暗いイメージであったが楽しかった」「自分も楽しく、笑えて人とふれあう仕事に就きたいと思った」「体験を通してさらに看護師になりたいという気持ちが強くなった」という感想を聞くことができました。また、「吸引をするとき怖くありませんか?」「夜勤は大変ですか?夜勤ではなにををするのですか」といった具体的な質問も聞かれました。病棟看護師からは日々の看護で心掛けていることを話してもらい、「相手の立場にたったケアを常に考えています。患者さんの価値観に寄り添って看護できるよう毎日頑張っています。最後の日まで少しでも楽しく過ごせるよう関わっていきたくと思っています」というメッセージが伝えられました。

限られた短い時間ではありましたが、今回の看護体験、意見交換会を通して看護師の仕事をより身近に感じ、具体的にイメージするためのよい機会になったのではないかと思います。患者さんの表情からも喜んでいただいている様子を感じることができ、また病棟で働く看護師たちも自分たちの看護を語ることで自分たちの仕事へのやりがい、責任感を再確認する機会になったのではないかと思います。近い将来、参加していただいた方々が看護師となって仲間になっていただけることを期待しています。



## 編集後記

夏の甲子園は大阪桐蔭高校の優勝で幕を閉じました。高校生達の全力プレーや球場の応援など熱気に包まれた空気がテレビを通じて伝わってきました。

野球はチームで行うスポーツですが、宮崎東病院も同様にチームで連携しながら患者様への医療を提供しています。医師や看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、療養介護専門員、事務職員など、様々な職種が協力しながら、より良い医療を提供する為に日々働いています。チームで強固な連携を図りながら、主役は病める人をモットーに努力を続けていきます。

新人医療社会事業専門員 松田